



# 男性、少年と性…の真実

ジェンダーを変容させる政策とプログラム

効果的で斬新な  
セクシュアル/リプロダクティブ・ヘル  
スとHIVのプログラ  
ムに男性を巻き込  
んでいくことが重要  
であることは実証さ  
れています。

# セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス と男性：背景

## 世界的な保健課題

セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス関連の健康障害とHIVは、依然として世界で最も深刻な保健課題のひとつです。2007年、HIV感染者は3,300万人に上り<sup>1</sup>、その半数は男性でした。同年、270万人が新たにHIVに感染しました<sup>2</sup>。その他の性感染症に関する統計も同じように驚くべき数字を示しており、世界保健機関(WHO)は毎日新たな感染が100万件あるものと推計しています<sup>3</sup>。

サハラ以南のアフリカでは、HIV感染者全体に占める女性と少女の割合が不均衡に高くなっています<sup>4</sup>。その他の地域では、感染者のほとんどが男性です<sup>5</sup>。主なHIVの感染経路は性的な接触であるため、自分たち自身とそのパートナーのため、またジェンダーの平等を向上させるためにも、男性と少年のセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスのニーズにより適切に対応することが重要です。彼らのニーズに十分配慮した保健サービスを提供するだけでなく、少年と男性が変革の担い手となり、固定観念的な男女の役割の考え方に異論を唱え、より平等な社会づくりを推進するよう支援していかなくてはなりません。

## 男性のセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス・ニーズ

男性のセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスに関する問題は様々です。最も一般的なものには、淋病、クラミジア、肝炎、HIVなどの性感染症と、前立腺ガンや性的機能障害などの感染しないものがあります。

男性と少年は、それぞれの性的欲求、行為、体験によってニーズも大きく異なるので、ひとくくりにはできません。若い男性や少年ならば、セックス、生殖、マスターベーション、早漏、性的志向について疑問をもつかも知れません。歳を重ねた男性なら、性的機能障害や関連するガンにより関心を寄せるでしょう。既婚男性なら、家族計画や父親になることについて考えているでしょうし、HIVと共に生きている男性なら、これらに加えて、治療、介護、支援などを必要としているでしょう。社会文化面、行動面での様々な理由から、同性と性行為

をする男性、薬物注射を利用する男性、男性およびトランスジェンダーのセックスワーカーは、最も脆弱な集団であり、HIVとセクシュアル/リプロダクティブヘルス関連の不健康に最も苛酷な打撃を受けています。汚名、差別、犯罪扱いを受けることもあり、いずれのグループも地下への潜伏を余儀なくされることがあまりにも多く、救命のためのサービスを受ける方途も限られています。

男性のセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスの問題は、歴史的に様々な理由により、脇に追いやられ、十分に取組まれることはなく、女性や少女のニーズに対応するついでに扱われる程度でした。男性は、伝統的に自らセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス・サービスを受けることはなかったかもしれませんが、この傾向はゆっくりではあっても変化しているよい兆しが見えます。しかし、資金不足と、受けられる治療の不足に、技能訓練を受けた人材の不足が加わり、男性のセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスを左右する疾病や性的機能障害は、今なお十分に検査、診断、治療が行われていません。

## 男性と少年と共に活動する

男性と少年に接触し、HIVとセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス・イニシアティブに彼らを巻き込まなくては、HIV蔓延を食い止め、減少させたり(ミレニアム開発目標6)<sup>6</sup>、リプロダクティブ・ヘルス・サービスを誰もが受けられるようにすること(ミレニアム開発目標5)<sup>7</sup>はできません。

IPPFは主に以下の3つの理由から、男性や少年と共に活動することが重要だと考えます。

1. 男性のセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスとライツを向上させる
2. 女性と少女のセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスとライツを向上させる
3. 有害なジェンダーの規範に異議を唱え、ジェンダーの平等を強化する

1 UNAIDS (2008) 2008 Report on the Global AIDS Epidemic. Geneva: UNAIDS. 前掲。

2 前掲。

3 WHO (2001) Global Prevalence and Incidence of Selected Curable Sexually Transmitted Infections: Overview and Estimates. Geneva: World Health Organization, 8ページ。

4 UNAIDS (2008) 2008 Report on the Global AIDS Epidemic. Geneva: UNAIDS. 前掲。

5 ミレニアム開発目標は、国連が2015年までに世界の貧困を半減するために打ち立てた8つの目標をまとめたものである。その目標6「HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止」の最初のターゲットは、2015年までにHIV/エイズの蔓延を止め、減少させることである。

6 ミレニアム開発目標5は妊産婦の健康の改善である。ターゲットは、1) 妊産婦死亡率を4分の3減らす、2) だれもがリプロダクティブ・ヘルス・サービスを受けられるようにする、の2点である。

男性と少年も女性と少女と同様、自らの健康を守り、向上させるために情報、物資、サービスの入手と支援を必要としています。自分のセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスによく気をつけている人は、HIVその他の性感染症を他者に感染させることが少なく、家族計画やHIVの母子感染を予防するようパートナーを支援する傾向があります。女性の弱い立場や保健サービスへのアクセスの不足などのこの感染症の根本にある原因に取り組むには、男性と少年がジェンダーの不平等と規範の有害な影響を理解することが大切です。

### ジェンダーの不平等と規範

ジェンダーとセクシュアリティに関するジェンダーの不平等と規範によって、HIVとセクシュアル/リプロダクティブヘルス関連の不健康に対する男女双方の脆弱さが増大します。多くの社会で、女性と少女はセックスについての知識は少なく、慎重深く、決まった人とだけ性的関係をもつことが期待されています。こうした規範のために、女性が必要な情報を入手したり、サービスを受けたりする機会は限定されています。その一方で、「男らしさ」とは、タフで、危険をかえりみず、複数の相手と性的関係をもち、酒をあおりその他の薬物を使うことであると見られています。さらに、男性は独立心が強く、虚弱ではないことが期待され、他者に助けや情報または治療を求めることを潔しとしないことにつながっています。女性と少女のセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスを守るためには、男性と少年が自らの健康を守り、ジェンダーの不平等に異論を唱えるよう積極的にはたらきかける必要があることがわかっています。

### ジェンダー意識の変容

セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスとHIV関連のプログラムは、有害なジェンダー規範と固定観念的な考えに異論を示し、より公正かつ公平な男女の関係を推進する必要があります。言い換えれば、プログラムは、在来のジェンダーの考えを変容させる必要があるということです。ジェンダーの考えを変容させるプログラムの本質は、若い女

性と少女の能力を強化し、それを支援するような社会的・法的枠組を提供するものでなくてはなりません。同時に、プログラムは、異なる行動体系と性的志向をもつ男性と少年が、個人として、またパートナー、夫、父親、息子、兄弟としての生活を変えることを支援する必要があります。しかし、セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスでもジェンダーのプログラムでも男性と少年は忘れられた存在であることがあまりにも多くなっています。

ジェンダー意識の変容を目指すプログラムの5つの主要原則は、以下のとおりです。

1. 公正な社会規範と構造を構築する
2. 各個人がジェンダーに公正な行動をとるよう推進する
3. ジェンダーの役割を変える
4. よりジェンダーに公正な関係を樹立する
5. 公正な社会制度を支援するような政策と法律の変更を政策提言する

### 行動する男性

幸いにも、政策とプログラムの両面で女性と男性のセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス問題に取り組む重要性への理解が勢いを得ています。多くの男性と少年がセックス、人間関係、パートナー、自分自身の健康、それに子どもの世話や支援の役割についての考えや実践を変化させています。こうした努力を高く評価し、支援し、推進していかなければなりません。以下に掲載するエチオピア、インド、ウガンダ、ベトナムでの日本信託基金プロジェクトの事例は、日本政府とIPPFが協力してこれを現実のものとしていることを示しています。また、これらの事例は、女性と少女の権利を進歩させることと、この対話に男性と少年が必ず対等なパートナーとして参加することが、緊密に結びついていることを思い起こさせる助けともなります。

女性と少女のセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスを守るためには、男性と少年が自らの健康を守るよう積極的にはたらきかける必要があることがわかっています。



アブド・ハッセン・レシス(19歳)  
独身。学生兼農業従事者。  
エチオピア、ケミッシー市近くの  
アルツマ・フルシ・ウォレダ在住。

「4年前だったかな、親友が町に連れていってくれて、代金を払うからセックスワーカーの所へ行って、一人前の男になる『通過儀礼』をしてこい、って言った。ぼくが断ったんで、最後は喧嘩になった。このことがぼくのその後の生き方を決める契機になった。その友人はもう亡くなってしまったけど、ぼくの人生に長く影響を残した」。

## 若い男性と少年と共に活動する

### 可能性を強調する

毎年、新規HIV感染者のうちの45%は15-24歳の若者です。これは若者向けのセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス・ニーズが大幅に満たされていないことを示しています。宗教や社会・文化的な規範が厳しく、若者たちの性的活動が許されない—あるいは否定される—こともよくあります。このため、セクシュアリティについて積極的に取り組むことをせず、沈黙したり、恐れたり、規律や禁じられた行いをも

とに、恥ずかしいものと考えたりすることにつながります。しかし、行動変容を起こすようはたらきかけた場合、成人よりも若い男性や少年のほうがより大きな効果がみられます。包み隠さず、偽りのないの情報や行動技能と、若者に親しみやすいセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス・サービスや総合的性教育が受けられるようになれば、若い男性と少年はHIVと性感染症や望まない妊娠を予防でき、健康でお互いに尊重し合う好ましいパートナーになれる。

### プロジェクト・ファイル

## エチオピア:サービスの行き届かない人たちが抱える問題に取り組む

#### プロジェクト:

農村部在住の若者向け性感染症とHIV予防

#### 実施団体:

エチオピア家族指導協会 (FGAE)

#### 実施地:

エチオピア  
アムハラ州  
デプレマーコス  
ケミッシー

#### 問題は何か

エチオピアでのセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスとHIVに対する脆弱性を増加させる主因として、貧困、ジェンダーの不平等、低い識字率と教育レベル、適切で安全な水の不足、食糧安全保障の欠如などがあります。ジェンダーの平等については徐々にいい方向に向かってはいるものの、ジェンダー規範については昔からの考えや習慣が、とくに農村部で根強く残っており、若者のセクシュアリティについての多くの文化的規範や価値観も加わって、おおっぴらに話しあったり、口に出したりするのを阻んでいます。

#### プロジェクトではこれらの問題にどのように取り組んだか

これらの問題に取り組むため、FGAEは農村地域2カ所に、若者に接し、参加を促すように計画した若者に親しみやすいセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスとHIVサービスを設置しました。多くの若い男性と少年は、この娯楽と教育を組み合わせた行事と巡回活動に参加して、セクシュアル・ヘルスや性感染症とHIVについてより理解が深まったと感想を述べています。とくにピア(仲間)のサービス提供者に対してなら、若者は、情報やコンドームや避妊薬が欲しいと、気後れせずに気軽に頼めました。地域社会の中での対話もHIVに関する沈黙を破り始めるきっかけとな

り、HIV検査を受ける人たちの増加につながりました。また、すでにHIVと共に生きている人たちも、抗レトロウイルス療法や母子感染予防のサービスを以前より気後れすることなく受けられるようになりました。

#### 重要なメッセージは何か

- ☑ **地域社会を巻き込む:** 地方当局、宗教指導者や両親など、地域社会のさまざまな関係者を巻き込むことは、若者がサービスを受けることを促し、より安全な性行動をとれるような環境づくりにつながります。HIVと共に生きる人たちにプロジェクトに参加してもらうことで、HIVに関する誤った社会通念を追い払い、汚名や差別の問題に取り組む助けになります。
- ☑ **ピア・サービス提供者の協力を得る:** ピア(仲間)サービス提供者による批判や価値判断をしない情報とサービスは、若者に届き、受け入れられるために有益である。
- ☑ **ジェンダーの不平等に取り組む:** ジェンダー、人間関係とセクシュアル・ヘルスに関する若者との対話に若い男性と少年を巻き込むことにより、彼らには能力と自信が付き、より公正なジェンダー規範の擁護者となって、女性の能力と自信強化を推進することにも役立ちます。

# 既婚男性と共に活動する

## 父親であることを強調する

30代の男性のほとんどは既婚者です。既婚男性の大半は妻とだけ性行為をしますが、貞節や性の権利に関する男性と女性のダブルスタンダードも一部反映し、男性が婚外の関係を持つこともそれほど珍しいことではありません。40代から50代初めには、男性のほとんどは父親になっています。しかし、家族計画も育児も普通は女性だけの責任とみなされ、男性の多くはパートナーと家族計画について話し合うこと

はありません。しかし、既婚男性や父親にとって大切な問題は、家族計画、妊産婦ケア、新生児ケア、子育てに従事することであり、自分の子どもにジェンダー平等と非暴力的な関係を態度で示し、模範的な父親となることです。だれもが抗レトロウイルス療法を受けられることが現実になりつつあることで、HIVと共に生きる世界で父親になることも多くの男性には実現可能となっています。



ファン・バン・タン(40歳)  
既婚、一男一女の父親。  
建設労働者。  
ベトナムのカントー在住。

「私にとって母親と妻がもっとも大切なんです。だって、母は私を産んでくれたし、妻は子どもたちに命をくれたでしょ。ふたりとも私の面倒をみてくれるしね。将来の願いは、安定した仕事に就いて家族を養うのに十分なお金を手にすること。とくに成長するにつれて子どもたちにはお金がかかるので。」

## プロジェクト・ファイル ベトナム:男性を利用者とする

### プロジェクト:

#### 問題は何か

オモン火力発電所建設労働者とその周辺住民を対象としたHIVと性感染症予防

### 実施団体:

ベトナム家族計画協会(VINAFPA)

### 実施地:

ベトナム、カントー市

#### プロジェクトではこれらの問題にどのように取り組んだか

タイ・ラオスで日本信託基金の支援を受けて実施された「希望の橋」プロジェクト<sup>8</sup>の成功と教訓に基づき、VINAFPAは建設労働者と周辺住民にHIVとセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス情報とサービスの提供を始めました。2008年12月までに、ピア教育者が情報、カウンセリング、その他 Condom を労働者総数の3分の2に提供しました。また、(ビデオやカラオケなどの)娯楽とセクシュアル・ヘルスとHIVについての啓発活動を組み合わせた行事を通して、さらに多くの人々に接しました。そのほか、巡回診療も実施し、500人以上の男性にサービスを提

供したり、他の専門施設に紹介連携しました。これらに加え、プロジェクトは、男性が情報とサービスを受けに行きやすい環境づくりにも力を尽くしました。その結果、建設業者は建設現場で情報資料とコンドームの配布を許可し、スタッフが勤務時間中に巡回診療所にいく時間を与えるようになりました。

#### 重要なメッセージは何か

- ☑ **職場あるいはその周辺の男性を対象とする:** これは男性にセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスとHIVの情報とサービスを届かせる戦略として効果があることが証明されています。
- ☑ **異なる接点を通じたメッセージを強化する:** 建設労働者と近しく接触する他の職業従事者にピア教育者として活動してもらうことにより、最もリスクの高い集団での予防メッセージが強化されることとなります。
- ☑ **セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス以外の保健サービスを提供する:** 男性は、セックスワーカーや地域住民と同様に、セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスに関する相談や診療だけでなく、その他の健康関連のサービスも提供されていると、ドロップ・イン・センターや巡回診療所をより利用しやすくなります。

8 IPPF (2005) *Bridge of Hope - Linking Community Involvement and Private Sector Partnerships with ODA to Address HIV/AIDS Awareness and Prevention*. London: International Planned Parenthood Federation.



ジュンクスキー・レクル(33歳)  
既婚、子どもはいない。  
ソーシャル・ワーカー。  
インド、ナガランド、コヒマ町在住。

「わが最大の功績は、薬物中毒から回復して、妻や家族を幸せにできたこと。将来の希望は、薬物との関係を絶ち続け、中毒になるようなものにはいっさい手を出さず、信頼に足る夫となり、善良で規律正しく、そして愛情に満ちた父親になること。」

## 薬物注射を行う男性と共に活動する

### 脆弱性を強調する

注射器や注射針の使い回しなど、注射による薬物利用にまつわる安全でない行為は、多くの国でHIV蔓延の経路として重要になっています。しかし、世界の薬物注射を行う人のうち、HIV予防活動の対象になっているのは、2割にすぎません。とくに、若い男性は日常のつらさから逃避するために薬物の誘惑にかられる傾向があり、薬物注射を行う者のうちかなりの割合を占めています。様々な個人的または社会

的な要因が、薬物利用者の間でHIV感染への脆弱性を増すことにつながっています。これらの要因には、安全でない注射行為や性産業に従事したり留置されたりすることも含まれます。さらに、薬物利用に対する汚名や、犯罪扱いにより、HIV予防活動が阻害されることもあります。たとえば、保健センターで検査、予防、治療が受けられたとしても、人々は逮捕されるのを恐れて、そこに出向くのを避けるからです。

### プロジェクト・ファイル インド：脆弱な集団を危険の淵から引きもどす

#### プロジェクト：問題は何か

脆弱な集団向けに情報とサービスを受けられる場を拡大する

インドでのHIVの蔓延状況は州や地方ごとに異なっています。それでもこの広大な国でひとつ共通していることは、脆弱な集団の間での感染が抜きでて高いということです。

#### 実施団体：

インド家族計画協会(FPAI)

#### 実施地：

インド  
ナガランド  
コヒマ町

#### プロジェクトではこれらの問題にどのように取り組んだか

この知見とセックスワーカー、注射による薬物使用者、男性同士で性交渉をする人々を対象に行った以前の活動をもとに、FPAIはこれらの集団でのリスクの高い行動を減らすことを目的とするプロジェクトを企画しました。この目的を達成するため、セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスの情報とサービスへのアクセスを増やす努力をしています。活動としては、ピア教育者による巡回活動、ドロップ・イン・センターと常設診療所、対象集団のメンバーたちと地域住民との交流を進め、警察、保健要員、地域社会リーダー向けの理解を深める研修を通しての汚名と差別への取り組み、それに対象集団のメンバーの能力育成を目指した職業訓練を実施しています。

巡回活動の間、ピア教育者は人々に「アクセス・カード」を配り、サービスを受けられるドロップ・イン・センターに引き継ぎます。そのセンターに行けば、自発的に受けるカウンセリングと抗体検査、コンドームと潤滑剤、B型肝炎の検査、予防注射、性感染症の診断と治療、家族計

画と健康全般の診察がすべて無料で受けられます。センターの職員は利用者に汚名を着せることなくサービスを提供し、敬意をもって接するよう訓練を受けた人たちです。

#### 重要なメッセージは何か

- ✓ **対象とする人々を巻き込む：**スタッフとアウトリーチ・ワーカーをセックスワーカー、男性同士で性的関係をもつ人たち、注射による薬物使用者の中から募ることがこれらの集団に接近し、信頼を得るために肝要です。
- ✓ **利用しやすい環境を整える：**柔軟性があり、しかも無料のセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス・サービスを提供し、より利用しやすくすることです。
- ✓ **「安全な居場所」をつくる：**社会から取り残された集団と共に活動するには、彼らが仲間に出会い、敬意をもって扱われ、支援を受けられる安全な場所をつくりだすことが重要です。
- ✓ **提携関係を広げる：**他の非政府機関と提携することは、適切な事業を見出し、プロジェクトが提供できるサービスの幅を広げ、職員とボランティアの能力を増強することに役立ちます。

# HIVと共に生きる男性と少年と共に活動する

## 権利を強調する

世界全体で、HIVと共に生きている男性と少年の数は1,530万人にのぼります。HIV陽性であっても、彼らが健康的で充実した性生活を送ったり、家族を形成しはじめたりする権利があることに変わりはありません。これを実現するには、HIVと共に生きている男性が、その他の性感染症を予防し、抗レトロウイルス治療などによりHIVからエイズに進行するのを遅らせ、性的パートナーと協力してウイルス感染を防ぎ、できるだけ安全に子どもをもうけるのを助けるサービスがより

利用しやすいものとなる必要があります。しかし、HIVと共に生きる人たちに対する汚名と差別が執拗に残り、彼らの権利はしばしば侵害されています。その中にはHIVの他者への感染を犯罪とみなす法律によるものも含まれます。これによって、無防備な性行為をしたことで起訴されることもありえます。それは、権利の侵害であり、また人々が検査、治療、ケアを受けるために出向いたり、また自分のHIV感染の公表を遅らせることにもつながります。



ブサオ・ソウェティ(24歳)独身。  
両親はエイズ関連の疾患で死亡。  
中古靴販売店の営業助手。  
ウガンダのイガンガ町在住。

「ぼくの人生最大の成果は、HIVを抱えたまま思ったより長く生き延びられたこと。2004年にHIV感染の診断を受けたときには、いつ死んでもおかしくないと思っていた。誰も面倒みてくれる人はいなかったし、ろくなものを食べていなかった。医療ケアを受けるなんて、とんでもなかった。今の最大の願いは、いつか医者になって、他の人の治療と世話をして、情報を伝えることなんだ」。

## プロジェクト・ファイル ウガンダ:HIVと共に生きる男性と少年

### プロジェクト： 問題は何か

天秤のつりあいをとる： HIV/エイズと共に生きる若者たちにケアと支援サービスを届かせる

2004年から2005年にかけて、RHUは、若者たち（ほとんどが一時的な仕事に携わる若い男性）を対象とするHIV予防と自発的に受けるカウンセリングと抗体検査サービス活動の規模を拡大しました。予想をはるかに上回り、検査を受けた若者のほぼ5人に1人はHIV陽性でした。しかし、当時のプロジェクトではHIV陽性と判明した人たちにその後必要となる一連のケアサービスを十分提供したり、HIVにまつわる社会の汚名や差別への取り組むことまではしていませんでした。

### 実施団体：

リプロダクティブ・ヘルス・ウガンダ (RHU)

### 実施地：

ウガンダ、イガンガ地区

### プロジェクトではこれらの問題にどのように取り組んだか

こうした状況に対応するため、RHUは自発的に受けるカウンセリングと抗体検査の提供、HIVと共に生きている若者向けのケアと支援サービスの統合、地域におけるHIV関連の汚名と差別を円滑に減らすことを目指したプロジェクトを企画しました。RHUはHIVと共に生きる若者たちが、必要に応じて抗レトロウイルス療法を受けられるように、政府の病院と治療センターとリファラル（紹介連携）体制を確立しました。これらの施設が50kmも離れていたため、スタッフ自身が継続して利用者のフォローアップをしました。

ラジオ番組、演劇、HIVテスト後のクラブ活動、地域住民の動員を活用して、プロジェクトは地域住民の間にHIVとエイズについてよりオープンな雰囲気づくりをしました。これは、HIVと共に生きている若者たち自身が、社会の中で認められるようになり、敬意をもって接してもらえるようになったと感じるようになったことから確認されました。プログラムに対してより多くの理解が得られ、フォローアップ・サービスも提供されるようになったため、セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスとHIVサービスを利用し始める人が増え、過去2年間で利用者の数は4倍になりました。

### 重要なメッセージは何か

- ✓ **リファラル（紹介連携）体制を確立する：** 診療所で、抗レトロウイルス療法のようなHIVと共に生きる人たちの全経過を通じた一連のケアが提供できない場合など、正式にリファラル体制を確立しておくことでサービスがより受けやすくなります。
- ✓ **所得獲得活動を提供する：** HIVと共に生きている人々に対する所得獲得活動支援が、大変大きな励みになることがわかっています。とくに、若い男性のプロジェクトへの参画が進みました。



「女性と少女のセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスを守るためには、男性と少年が自らの健康を守り、ジェンダーの不平等に異論を唱えるよう積極的にはたらきかける必要があることがわかっています」。

IPPF事務局長  
ジル・グリア博士

IPPFは、日本政府が日本HIV/エイズ信託基金(JTF)を通して、IPPFとその加盟協会を継続的に支援して下さることに心から感謝いたします。

この出版物は、ジョイセフとIPPF広報・政策提言課、資金調達課からの協力を得て、IPPFHIV課が作成しました。



## 日本政府からの言葉

今年は、1994年に開催された国際人口開発会議(ICPD)から15年目の節目であることから、このたび男性と少年の性をテーマとする本冊子が出版されることはまさに時宜を得ています。

昨年、我が国は第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)とG8北海道洞爺湖サミットという2つの大きな国際会議を主催し、国際社会の協力を得て開発戦略の設定を主導しました。TICAD IVではアフリカが抱える保健問題を議論し、続くG8北海道洞爺湖サミットでは、さらに幅広く国際保健に関する洞爺湖行動指針を立ち上げ、リプロダクティブ・ヘルスを含めた包括的取組の重要性を訴えました。

その後もこれらの会議を通じて熟成された国際保健に対する気運を維持するためのフォローアップを行っています。例えば、昨年11月には「保健システム強化に向けたグローバル・アクションに関する国際会議」を官民で共催しました。

これらの取組を進める上で、人間の生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威から人々を守り、誰もが自らの豊かな可能性を実現できるよう能力強化を目指す人間の安全保障の考え方が非常に効果的です。この考え方の下、我が国は、保健分野において感染症対策と保健システム強化のために、包括的かつ各国、国際機関、民間、学界、国際家族計画連盟(IPPF)を含むNGO、市民社会等と協力しながら推し進める参加型のアプローチで取り組んでまいります。

IPPFが取り組む、セクシャル/リプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)は、ミレニアム開発目標のうち、ジェンダー平等推進と女性の地位向上(目標3)、妊産婦の健康の改善(目標5)だけでなく、幼児死亡率の削減(目標4)、HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止(目標6)等と深く関係しています。我が国は、人口/リプロダクティブ・ヘルス分野におけるIPPFの活動を高く評価しており、積極的に支援してまいりました。

2000年に設置した日本HIV/エイズ信託基金(JTF)事業では、我が国とIPPFが擁する草の根レベルのネットワークとが連携し、HIV/エイズの抑制のみならず、リプロダクティブ・ヘルスの視点を踏まえた人口問題への取組をアフリカ、アジア地域で進め、多くの成果を上げてきました。

本冊子は、各地で活躍されているIPPF及びその加盟協会の精力的な活動の成果の結晶です。人口/リプロダクティブ・ヘルス分野に関心を有する方々ばかりではなく、これまで必ずしも関心をお持ちでなかった方々にも広くお読みいただき、HIV/エイズとの闘いについて、市民レベルを含めた国際的な理解が深まるとともに、関係者の活動の一助となることを願っています。

植野 篤志  
外務省国際協力局多国間協力課長

男性と少年を、自分自身のため、パートナーのため、そしてジェンダーの平等を推進するために、セクシュアル/リプロダクティブ・ヘルスとHIVに向けた効果的で斬新なプログラムに巻き込むようより積極的に推進する必要があります。ここに掲載されたプログラム事例は、日本HIV/エイズ信託基金(JTF)の支援の下、アフリカとアジアで実施されたプロジェクトの経験をまとめたもので、男性や少年の多様なグループがそれぞれにもつセクシュアル/リプロダクティブ・ヘルス・ニーズを強調し、最良実践例を提示しています。

本冊子はIPPFの英文出版物“The truth about ... men, boys and sex: gender-transformative policies and programmes”をもとに編集されたものです。英文原本はウェブサイト [www.ippf.org](http://www.ippf.org) からご覧になれます。

IPPF  
4 Newhams Row  
London SE1 3UZ  
United Kingdom  
Tel: +44 20 7939 8200  
Fax: +44 20 7939 8300  
Email: [info@ippf.org](mailto:info@ippf.org)  
[www.ippf.org](http://www.ippf.org)

UK Registered Charity  
No. 229476

Published in June 2009 by the International  
Planned Parenthood Federation